



オーストラリア直送レポート

Vol.6 2019.8.16 最後の登校日

●ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課 井口
吉備中学校 島本

パーマストーン校グループ／教育委員会社会教育課 湯田・林

[ドリップストーン校グループ]

いよいよ登校最終日となりました。いつも通り学校に行くと、「もう最終日か、もっとオーストラリアにいたい」と言う研修生がいました。登校初日は、緊張と不安でいっぱいだった研修生でしたが、非常に充実した表情の中に、どこか寂しそうな様子でした。最終日の今日は、午前中2時間授業を受け、その後はフェアウェルランチを自分たちで作りと、その後フェアウェルパーティーの予定です。今日も2班に分かれて、授業を受けました。体育や美術、ICTなどの授業がありました。体育では、現地の生徒と研修生が混ざり2チームに分かれて、サッカーのようなゲームをしました。サッカーとは違い、両チームの生徒は両サイドラインに並びます。そして、あらかじめ生徒は番号を決められ、先生が呼んだ番号の生徒同士が、ボールを取り合い、ゴールに入れると点が入るというルールで、サイドラインに並んでいる生徒にボールをパスすると、ボールに触った生徒もゲームに参加できるというものでした。その中で特に印象的だったのは、点が入ると必ず点を決めた選手に対して、全員が拍手をしなければならないということです。拍手をしていない生徒がいると、先生は厳しく注意をしていました。また、特にいいプレーをした選手には、みんなの中心に呼ばれ、全員から改めて、拍手をもらうことができます。こういったゲームの中でも、単に体力を向上させるだけでなく、相手を称えることの重要性や、スポーツマンシップを教えていることが非常に印象的でした。研修生たちもしっかりと拍手をしており、授業が終わった後はハグや握手をして、相手を称えていました。また、授業を通して新しい友達を作っている研修生もいました。その後の休み時間には、メッセージの入ったノートをもらったり、一緒に写真を撮ったりと、非常に貴重な時間を過ごしていました。



美術や料理の時間でも、研修生たちは現地の生徒に教えてもらいながら、かけがえのない時間を過ごすことができました。フェアウェルランチを食べた後は、カードゲームやボードゲームを一緒にしたりと、最後のドリップストーン校での時間を、全員が有意義に過ごすことができました。登校初日のように、遠慮した姿はなく、日本で友達と楽しむように、現地の生徒とゲームや会話を楽しんでいました。



放課後は、研修生とホストファミリーが海辺に集まり BBQ をしました。各家庭が食べ物や飲み物を持ち寄り、みんなで夕食を食べました。ホストファミリーと一緒に食べている研修生たちを見ていると、本当の家族のような印象を受けました。ホストファミリーからの問いかけにしっかりと答え、笑顔で会話をしていました。私は普段、学校での研修生たちを見る機会が多いので、その光景を見て研修生たちの成長を感じることができ、非常に感動しました。また、食べた後は、現地の生徒と研修生が浜辺で一緒にサッカーをしたり、花火をしたりしていました。現地の生活は、明日一日と明後日の午前中だけで、残りわずかです。研修生たちには、残された時間をホストファミリーと大切に過ごしてほしいと思います。研修生たちの楽しんでいる様子を見ると、日曜日の空港でのホストファミリーとの別れが辛くなりますが、研修生たちがかけがえのない時間を過ごしている証拠でもあります。日曜日に研修生たちが、どういう別れを迎えるのか非常に楽しみになりました。(井口)



ドリップストーン校への登校最終日となった今日。私たちが登校するといつものように笑顔で現地の生徒と話をする研修生の姿がありました。1週間で本当にたくさんの友達を作り、現地で中学校生活にも馴染むことができました。最初は話しかけられても、照れたように笑うだけだった研修生が、自分たちから英語や身振り手振りを使ってコミュニケーションをとる姿は本当にたくましいなと感動すら覚えました。

この研修を通して研修生たちは本当に大きく成長することが出来たと思います。決して英語という語学の勉強だけでなく、ホームステイをさせてもらうことで家庭での過ごし方や文化や伝統なども肌で感じる事が出来たと思います。この経験を忘れることなくこれからの人生に活かしていってほしいと思います。

ホストファミリーの方だけでなく、ドリップストーン校の先生や生徒、大勢の方のお陰でこのような経験が出来ていることもよく覚えていて欲しいと思います。9月にはドリップストーン校からの交換留学生が訪れてくれます。その時に自分たちがしてもらったように親切に、優しく接してあげて欲しいと思います。(島本)

オーストラリア研修 第9日目



(湯田) 日本を出発して9日目、学校での研修最終日、パーマストンカレッジで授業を受けます。こちらは日本では高校にあたる学校です。

1、2時間目は体育。はじめは鬼ごっこのように鬼が動き回り生徒たちを捕まえていきます。途中からBGMを流しながら、バスケットボールのシュート練習を行います。しっかり体を温めたところでバスケットボール開始です。さすがに、研修生は高校生と一緒にプレーできないので、研修生同士で試合を

行います。楽しそうにプレーしていました。



休憩時間 Recess をはさんで、3 時間目は数学です。研修生 2~3 人のグループに高校生が 2 名つきます。先生から進む方向と距離が書かれた紙が配られ、方位磁石と距離を測る器具を使い、ゴールを目指します。さあスタートです。80度 10mなどと書かれているので指示どおりに進んでいきます。ゴール地点はみんな同じはずですが・・・あれ？全く違うところにいるグループもありました。

4、5 時間目は美術です。アボリジニの民族作品



の絵柄を参考にペンギンや鳥、えび、ワニなどの厚紙に下地の色を塗って作品を仕上げています。とても細かな作業です。ここでも作業中はBGMを流しています。作業がはかどる様な気がします。研修生は、黙々と絵を描いていきます。授業の終盤でやっと作品が完成しました。研修生たちの作品を一ヶ所に集め、カメラで



写真を撮って授業終了です。午前中の授業が終わりました。

ランチタイムになりました。普通ならここでお昼ご飯ですが、午後の授業で調理実習があるので我慢の



時間です。30分後、6、7時間目の開始です。この学校の調理実習室はまるでレストランの厨房のようです。今日は、Chicken and Salad Rrap(チキンとサラダ巻き)を作ります。全員、帽子をかぶり、エプロンをつけます。まずは、先生から今日の料理についての説明です。研修生たちは一生懸命先生の話を聞いています。



レタス、トマト、キュウリ、鶏肉などを人数分取っていき実習開始です。高校生たちが手際よく準備してくれ、研修生がレタスなどを切っていきます。鶏肉に味をつけ炒め、細くカットすると完成一步手前です。最後にWRAP(クレープの様に薄いパン)に切ったレタスなどを盛りつけ包んで完成です。お腹がすいています。みんなおいしそうにWRAPをほおばります。

この授業が最後の研修となります。このあと、ホストファミリーが迎えに来てくれ、家に戻っていきま
した。

あっという間に 12 日間の研修が終わろうとしています。「日本に早く帰りたい」という子もいますが、
「まだ居たい」という子もいます。明日、土曜日がホストファミリーと一緒に過ごす最後の日です。オー
ストラリアの良い思い出をたくさん作ってもらいたいと思います。日曜日の午後、空港に集まってくる研
修生の笑顔を思いながら今日の報告は終わりとなります。



(林) 登校最終日。今日は、昨日に引き続き朝から雲が空をさまよっていました。
今日、研修生たちが登校するのは、PS 校でも日本では高校に該当する学校です。昨日までは、PS 校（7
ー9）の校舎で学び、最終日は、PS 校（10ー12）の校舎で現地の生徒と研修を行います。
PS 校（10ー12）の校舎は、PS 校（7ー9）の校舎から車で約10分の距離にあります。PS 校（1
0ー12）の校舎も広大な敷地に平屋建ての校舎がたっています。
PS 校に到着し研修生たちを探していると、研修生たちの元気な声が聞こえてきました。登校最終の朝も
研修生たちが元気に、昨日ホストファミリーと過ごした内容を話していました。
今日の案内役、アニータ先生に案内いただき、体育館での集会に参加しました。集会では教頭先生から歓
迎のお言葉をいただきました。集会が終了し、同じ体育館で1、2限目は体育に参加しました。
昨日までのPS 校（7ー9）の現地生徒の体格にも驚きましたが、PS 校（10ー12）の生徒の体格に
は、研修生たちも最初は戸惑っている様子でした。しかし、簡単な準備運動ゲームが終わるところにはすか
っかり慣れている様子で、簡単な単語を使ってコミュニケーションを取っていました。授業の中でバスケ
ットボールをする場面がありましたが、日本の研修生がドリブルやパスをするとPS 校生達が歓声をあげ

て応援をしてくれていました。また、シュートが決まると拍手も起こっていました。日本の研修生達も久しぶりに体を動かしての交流だったので、とても楽しそうでした。三限目は、数学の授業に参加しました。この授業では、先生からコンパスと距離を測る道具が配られて。プリントの指示に従いながら校舎内を移動するものでした。研修生たちは、PS校の研修生達とグループを組みそれぞれの行動していました。この授業で印象的だったのは、日本の研修生から「ここから、1、2、3歩で右かなと」日本語でPS校に話しかけていることでした。PS校生は言葉の意味は直接理解していないようでしたが、研修生が合わせて一生懸命身振り手振りをしていると通じたようで、笑顔で「サンキュー」と答えていました。この光景を見て、英語でなんて言えば良いか悩んで黙ってしまうより、日本語交じりでも相手に伝えようとするのがいかに大事か再認識させてもらえました。4、5限は美術のクラスに参加させていただきました。先生からオーストラリア特有の生き物の好きな型紙を選ぶように言われ、研修生たちは友達と相談したりする子、ずっと自分で選ぶ子など思い思いに動物の型紙を選びました。その型紙に先生から、オーストラリア

アボリジニアート特有の模様や色遣いを教わりながら、模様を描いて色を入れていきました。研修生たちはいつになく集中した様子で、打ち込んでいました。完成した作品を美術の先生に「GOOD」と褒めてもらおうと誇らしげに「サンキュー」と答えていました。出来上がった作品一つ一つに研修生の個性が表れていました。6、7限目は、調理実習で現地校生徒と一緒にオーストラリアで有名なラップ（野菜や肉を小麦粉で出来た皮で巻いたもの）を作りました。調理の様子をみていると、包丁の使い方が危なっかし子だったので「普段料理をしている」と聞いてみると「ほとんどしていないと」言っていました。PS校の生徒に聞いてみると「親が共働きなので、晩御飯を定期的に作っている」と答えてくれました。PS校の研修生達に助けられながら、ラップが完成すると研修生たちは口いっぱいほほうって「おいしい」と笑顔でした。登校最終日は、月曜日から木曜日までの同世代ではなく、少し上のお兄さん、お姉さんとの授業でしたが、研修生たちはしっかり研修に取り組めていました。これは、研修生たちの力はもちろんのこと、PS校の先生方のサポートや、現地校生たちの温かい気づかいのおかげだと思います。研修生をPS校から見送る時に、「もう日本に帰るんか」、「早く帰ってお母さんに会いたい」の声が聞こえてきました。今日で、現地校での研修は終わりましたが、研修生たちはこの週末ホストファミリーとオーストラリアでの最後の時間を過ごします。先週、オーストラリアに来たばかりの週末とはきっと、研修生にもホストファミリーにとっても違う時間になると思います。日曜日の別れの時まで、しっかりホストファミリーとかけがえのない時間を過ごして欲しいと思います。元気に、日曜日に空港で会えることを楽しみにしています。